令和６年度　学校運営連絡協議会実施報告書

１　組織
（１）都立足立西高等学校　学校運営連絡協議会（全日制課程）
（２）事務局の構成　副校長、総務主任、　計２名
（３）校内委員の構成
　校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生徒主任、進路指導主任　総務主任　計７名
（４）協議委員の構成
　区立小学校長、区立中学校長、PTA 会長、元 PTA 会長、警察署少年係長、消防署出張所長、
　地域町内会代表、同窓会代表、公的機関代表、教育関連機関代表　　計 10 名

２　令和６年度学校運営連絡協議会の概要
（１）学校運営連絡協議会（第１～３回）の開催日時、出席者、内容、その他
　第１回　令和６年６月１９日（水）校内委員７名、協議委員４名
　　協議委員依嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画
　　昨年度学校評価結果の活用、本校の現状と課題等説明、意見交換
　第２回　令和６年１１月２０日（水）校内委員７名、協議委員５名
　　教育活動の現状と課題（報告）、生徒募集対策説明、地域との連携協力の在り方
　　学校評価の内容検討、意見交換
　第３回　令和７年３月５日（水）校内委員６名、協議委員３名
　　学校評価アンケート実施について、各分掌からの報告、質疑応答、意見交換
（２）評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
　第１回　令和６年１１月２０日（水）校内委員７名、協議委員３名
　　学校評価アンケートの課題、評価の観点、基本方針の確認
　　評価内容・項目等の協議・決定、実施時期の決定
　第２回　令和７年３月５日（水）校内委員７名、協議委員３名
　　学校評価アンケート結果について、意見交換

３　学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）
（１）学校評価の観点
　「教育活動の充実」「学校運営への理解」「学校への期待」の観点で実施する。
　また、教員の「働き方改革」について保護者及び、教員への質問項目を加えた。
（２）アンケート調査の実施時期・対象・規模

実施時期	対象	回答（人）	回答率（%）
令和6年11月30日～令和6年12月25日	全校生徒568名	537人	94.5%
	全校保護568名	169人	29.8%
	教職員38名	15人	39.5%
	協議委員10名	4人	40%

（３）主な評価項目
　教員の働き方、学習指導、生活指導、進路指導、学校行事、生徒会・委員会活動、部活動
　健康・安全指導、美化活動、地域社会への貢献、保護者との連携、家庭・地域への情報発信
　今年度の重点、学習指導、部活動、国際交流、探究の取組み等
（４）評価結果の概要　（校長や学校全般への意見・提言内容）
　Microsoft365 Forms方式にしたが、回収率を大幅に上げる手だてにはならなかった。今後は保護者コミュニケーションシステムを導入し、Formsによるアンケートを強化し回収率アップを図りたい。
【学校運営連絡協議会　協議委員からの回答】
　１　生徒は明るい学校生活を送っている。肯定評価　100%
　２　生徒は部活動や生徒会活動に熱心に取り組んでいる。　肯定評価 100%
　３　生徒は近隣住民の生活(安全・安心)に迷惑をかけずに学校生活を送っている。肯定評価 100%
　４　生徒はボランティア活動等、地域に根付いた学校として取り組んでいる。肯定評価 100%
　５　本校は、行事(体育祭、文化祭、授業公開等)について文書やHPで積極的に発信している。肯定評価 80%
　６　本校は、他校にない特色ある教育活動を実施している。　肯定評価 60%
　７　本校は他校にない特色ある教育活動を実施している。　肯定評価 60%
（５）評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

・「生徒による授業評価」の実施し、全体として学習指導、進路指導への満足度の高まり、行事への積極的参加の割合の伸びがよい傾向であることが分かった。
・どの設問にも、保護者の「わからない」という回答が多いため、学校の広報をさらに強化する必要がある。

4　学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）
（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
・教育活動への理解とともに率直な意見を数多く得られた。教職員では気づかない問題点の提示により改善すべき点が明確になった。
（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
・学習への期待として、「習熟度指導」「少人数指導」の充実
・生活への期待として、「部活動」「施設設備」の充実
・生徒指導への評価とともに、地域連携、地域連携へのさらなる期待
5　学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）
（1）学校運営
・昨年度同様、地域・保護者の要望に対し、学校の様子を伝える頻度を上げる。
・行事や部活動の活性化や見える化を推進する。
・高校生が地域で活躍する場を増やし存在感を示せるようにする。
（2）学習指導
・長期休業日中や放課後等の補習の充実を図る。
・基礎学力定着と大学進学対応の学力育成のため、習熟度別授業の検証・改善を図る。
・図書館利用を推進し、読書する習慣を身につける。
（3）特別活動
・部活動体験入部期間を設定し１年生全員入部を加入率を上げる。
・連携に根差したボランティア活動への参加率を高め、さらなる地域貢献の機会を増やす。
（4）生活指導
・全教職員が共通理解をもち、毅然とした態度で生活指導にあたる。
・朝の正門指導による身だしなみ、遅刻指導を継続し、落ち着いた学校環境づくりを行う。
・自転車事故０を目指し、雨天時のレインコート着用、ヘルメット着用を徹底する。
（5）進路指導
・進路行事や状況を学校運営連絡協議会や保護者会で報告し、より理解を深める。
・教科と連携し、資格検定試験の重要性を説き、強力に推進する。
・２学年で希望進路を明確にし、受験や進路活動の準備を早期スタートさせる。
・探究的な取組みとしてインターンシップを通して就業への意識づけや進路目標につなげる。
（6）健康・安全
・交通安全指導を充実させ、生徒の殆どを占める自転車通学の安全を向上させる。
・セーフティ教室、防災訓練の実施により生徒の安全、防災意識の向上に努める。
・スクールカウンセラーの活用により、教育相談のさらなる充実をはかる。

6　「学校が良くなった」と考える協議委員の割合
（1）協議委員人数　10 人（アンケート４名提出）
（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	3					

7　職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
【実績】職員会議　０回　　企画調整会議　０回
【成果】協議会では、各分掌と協議委員の意見交換が活発にできた。

8　その他
・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。